

こども音楽コンクール参加に向けてのガイドライン

こども音楽コンクールでは、今後の活動に向けて指針となるようガイドラインを作成しました。合唱や合奏の練習や音源録音に際しては、密室に近い状態で多くの人が息を使って声や音を出します。これは新型コロナウイルス感染症では、行ってはいけない密集、密接、密閉の環境をつくってしまう可能性があります。

このため合唱や合奏に関しては、今までの練習方法などにとらわれない新しい工夫が必要になります。

活動に向けて学校内の理解を得るのはもちろん、保護者への理解と協力が不可欠となります。そのための説明等は丁寧に慎重に行う必要があります。指導者間の情報交換や保護者への現状説明等も頻繁に行ってください。

また応募に際し、「学校長の承認書」を提出いただくことで、ご参加の際は「こども音楽コンクール参加に向けてのガイドライン」に沿い、新型コロナウイルス感染症対策に十分に留意したうえで参加されたものとします。

なお、重唱・合唱は、音源収録や大会ステージでの歌唱時「マスク着用」をルールとします。

(演奏準備段階)

- メンバーの健康状態を日常的に把握する。(練習前の検温、手洗い、消毒液等の準備)
- 実際に演奏するとき以外はマスクを着用し、児童・生徒間の会話も控える。
- 準備体操等を含めて、身体的接触を避ける。
- 演奏前には必ず、楽器の消毒を行う。
- 使用する部屋も共通して触る部分などは消毒を行う。
- 活動前、活動中は、部屋の換気を十分に行う。
- 文部科学省が提言している「学校の新しい生活様式」を遵守する。

(練習に関して)

- 活動初期は、全体練習をさけた練習方法や計画が必要となる。
- 連続した練習は、長時間おこなわず(30分程度にとどめ)その都度換気を行う。
- 個人練習を中心に考え、個々のレベルアップをはかるような練習方法を計画的に行う。
- 少人数によるパート練習、グループ練習を中心として十分な距離をとって行う。
- 弦楽、箏、パーカッション等、口を塞いでも可能な楽器の担当はマスク着用とする。
- 円形や向き合う形で練習しない。

(音源録音に関して)

- スペースと人数を考慮して、密集・密接になるような形態をさける。
- 児童・生徒と十分にコミュニケーションをとり、参加する人数を制限することも考える。
- 今年度に関しては、短い練習時間を考慮して選曲の難易度を下げることが必要になります。合唱・合奏などは短い曲の演奏など、選曲にも工夫が必要です。
- 全体での練習は極力短くし、音源審査の録音もなるべく短時間で済むように工夫する。

児童・生徒の健康と安全を第一に考えて、感染防止対策を作成して、学校長の許可や保護者の理解を得たうえで、活動を行ってください。

このガイドラインはあくまで「全国こども音楽コンクール」の指針として作成されたものであり、地域の感染状況や学校の実情、各教育委員会の指導なども考慮して活動を実施することが必要です。また地域の感染状況によっては、活動を中止して感染防止をはかることも重要です。